

着任のご挨拶



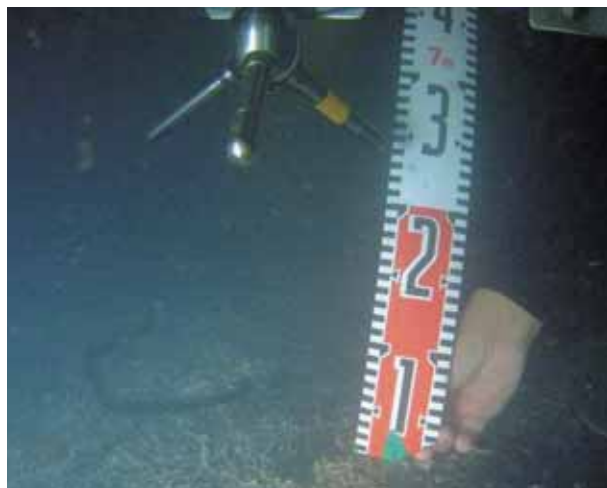
沿岸域社会計画学
中川 康之客員准教授

4月1日付けで本学の客員准教授を拝命いたしました。これまで、勤務する研究所において夏期実習生の研究指導などを通じて、学生と接してきたことはありますが、大学での職務に就くのは初めての経験となります。

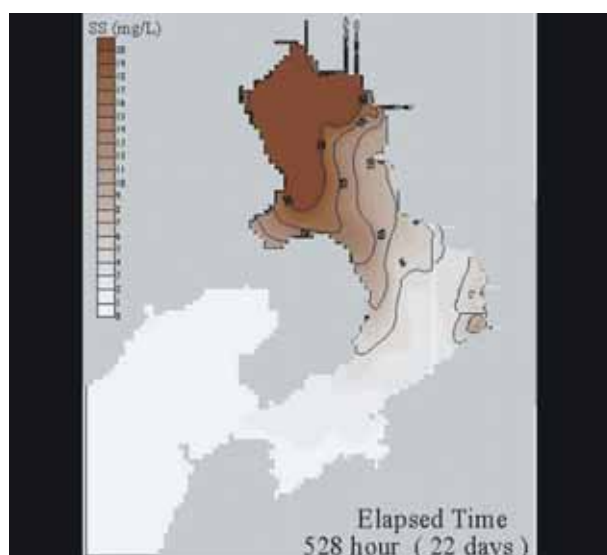
今から10数年前の話になりますが、アメリカ北東部のチェサピーク湾沿岸にある大学研究所に1年間留学していました。チェサピーク湾といえば、モニタリングを通じた環境管理が、連邦政府・地方政府をはじめとする多くの関係機関により組織的に実施されていることで有名です（きっかけは食用カキの減少による）。当時、環境改善などの目標を定めて水質規制等を実施していましたが、必ずしもすべてが目標通りにうまくいっていたわけではなく、人間活動が深く関与する自然環境の回復の難しさを感じました。一方、私が所属していた研究所でも地域の子供たちに環境教育を積極的に実施しており、また沿岸を含めた海洋学分野の大学院生への政府からの奨学金を充実させるなど、問題解決に向けた教育・人材育成面での長期的な戦略が非常に印象的でした。（帰国してから有明海を研究フィールドとして調査等を始めつつあった頃、のり不作をきっかけに有明海でも環境モニタリングの重要性が高まろうとは、何かの縁を感じます。）

さて現在取り組んでいる主な研究テーマは、内湾域の底泥輸送メカニズムの解明です。

有明海も主要な研究フィールドの一つとして、これまでも幾度か現地調査を実施し、底泥輸送のシミュレーション・モデルの開発に携わってきました。これらの経験も熊大での研究教育活動に活かしつつ、将来の有明海的环境を担うことになる学生さんたちと、新しい研究課題にチャレンジしていきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



海底泥の挙動把握のための現地調査



有明海の底泥移動シミュレーション